

綏靖天皇、

神武帝の第五子なり。

母は媛蹈鞬五十鈴媛皇后。

天皇、風姿岐嶷、

少くして雄拔の氣あり、

壮なるに及びて

魁傑沈毅にして、

最も武事に長ず。

神武帝の四十二年、

立ちて皇太子となる。

七十六年三月、

神武帝崩ず。

皇太子、

資性純孝にして、

悲慕已むことなく、

心を葬事に悉し、

庶務は、

一に庶兄手研耳命に委ぬ。

ひのとうし
とし
丁丑の歳、

ひのえとら
九月十二日丙寅、

じんむてんわう
ほうむ
神武天皇を葬る。

たぎしみゝのみこと
りやうあん
手研耳命、諒闇の際、

あふくおのれ
よ
もつ
威福己に由るを以て、

つひ
くわうたいし
がい
はか
遂に皇太子を害せんと圖る。

くわうたいし
そ
じやう
し
皇太子、其の情を知り、

ひそか
これ
そなへ
な
密に之が備を爲す。

つちのとう
とし
己卯の歳、

さんりようことをは
山陵の事畢りしかば、

めい
きうし
つく
命じて弓矢を造り、

ひそか
ほけいかむや
あみゝのみこと
はか
陰に母兄神八井耳命と謀り、

まさ
これ
いころ
將に之を射殺さんとす。

たまたまたぎしみゝのみこと
會手研耳命、

ひと
ちかう
うち
ふ
獨り地窖の中に臥せり。

くわうたいし
かむや
あみゝのみこと
皇太子、神八井耳命をして

これ
い
之を射させしに、

せんりつ
や
はな
あた
戦慄して矢を發つこと能はず。

皇太子、

乃ち其の弓矢を奪ひ、

射て之を殪せり。

元年庚辰、

春正月八日己卯、

天皇、位に即く。

時に年五十二、

之を神渟名川耳天皇となす。

葛城に都す。

是を高丘宮と謂ふ。

二年辛巳、

春正月、

五十鈴依媛を立て、

皇后となす。

四年癸未、

夏四月、

神八井耳命薨す。

二十五年甲辰、
ねんきのえたつ

春正月七日戊子
はるしやうがつ つちのえね

磯城津彦玉手看尊を立て
しき つひこたまて みのみこと た

皇太子となす。
くわうたいし

三十三年壬子、
ねんみづのえね

夏五月、
なつ

天皇、不豫なり。
てんわう ふよ

十日癸酉崩ず。
みづのとことほつ

年八十四。
とし

桃花鳥田丘上陵に葬る。
つぎ たのをかのへのみさぎ はつむ

追諡して
つゐし

綏靖天皇と曰ふ。
すゐせいてんわう い